週刊 地震ニュース

No.285

5月5日 ～ 5月11日

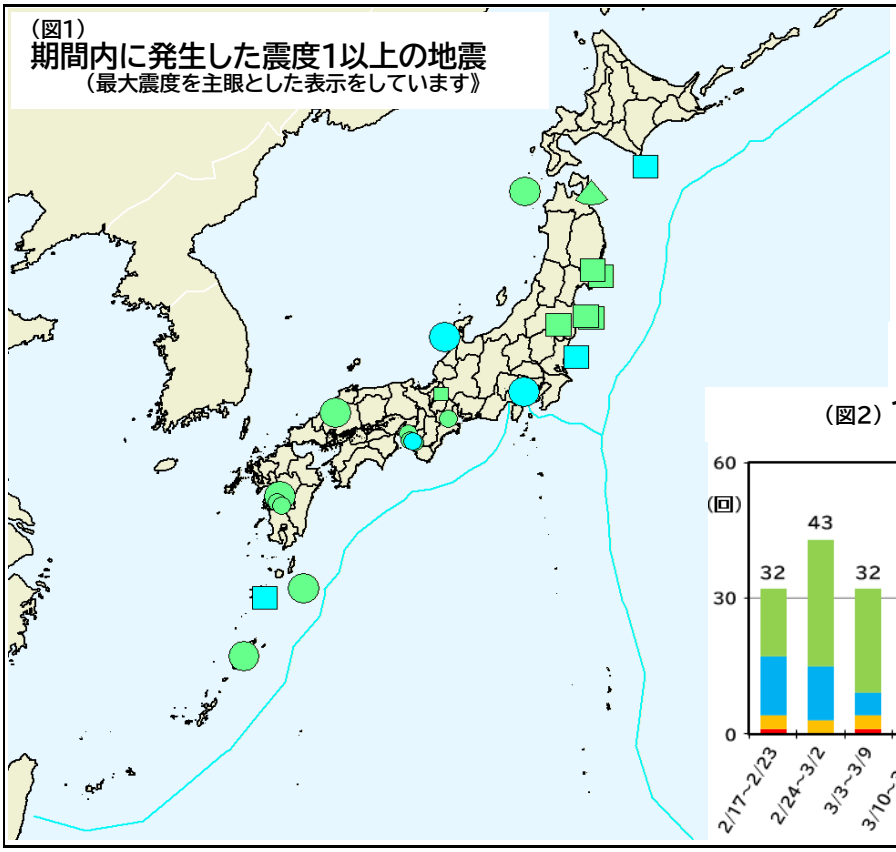
NPO法人 環境防災総合政策研究機構

2025年5月12日 発行

この期間の最大震度は2

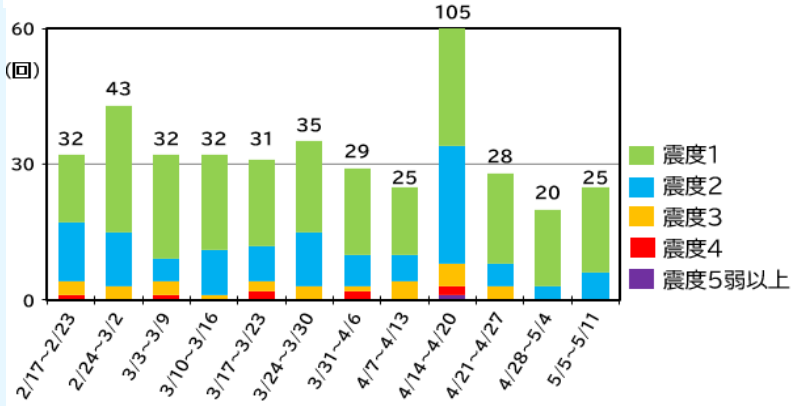
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの　（出典：気象庁震度データベース/地震情報）

（図1）
期間内に発生した震度1以上の地震
（最大震度を主眼とした表示をしています）



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	7.0	0
震度4	5.0	30
震度3	3.0	90
震度2		
震度1		

（図2）**1週毎の最大震度別地震発生回数**



主な地震の発生状況（図1,図2参照）

■　この期間、震度1以上の地震が25回発生。最大震度は2。　■
この期間の最大震度は2で、前期間に引き続き穏やかな活動でした。

トピックス

■　南海トラフ巨大地震 被害想定の見直し　■

・前期間に引き続き、この期間も大きな地震は無かったので、本年3月31日に10年ぶりに見直された南海トラフ巨大地震の被害想定について見てみます。見直された主な内容は以下のとおりです。

＜津波＞地形データの更新や水位の基準変更等により、所々に違いが見られるが、全体の傾向として大きな違いはない（図3参照）。
＜震度＞地盤構造モデルの違い等により、紀伊半島等で局所的に震度が大きくなった地域が見られるが、震度分布の全体の傾向としては大きな変化はない。
＜死者＞29万8000人と前回の32万余りからわずかな減少にとどまった。
＜建物被害＞全壊・焼失が最大で235万棟と前回の238万6000棟からわずかな減少にとどまった。
＜災害関連死＞初めて推計され、最悪の場合5万2000人で東日本大震災のおよそ13倍にのぼるおそれがあると推計された。
＜半割れ＞東・西半割れの震度は、それぞれ最大クラス地震の紀伊半島より東の震度分布及び西の震度分布とほぼ同様。紀伊半島周辺では、両方で強い揺れとなる。津波は東・西半割れ共に、最大クラスと比較して低い。
＜これまでの取り組みの効果＞各地で様々な機関や住民による被害軽減対策が進んだにも関わらず想定される被害はあまり減っていないのは、今回の報告は津波からの避難が遅れることを想定したことや、被害を推計する前提のデータが変わったためと報告されている。
＜被害を減らすには＞これまでの取り組みの効果もあり、迅速な避難に向けた取り組みや耐震化などがさらに進めば、犠牲者は大幅に減るとしています。

・行政が対策を進めることはもちろんのこと、個人でできる耐震化の進展や津波からの迅速な避難を引き続き心掛けることが求められるのでしょう。

（図3）

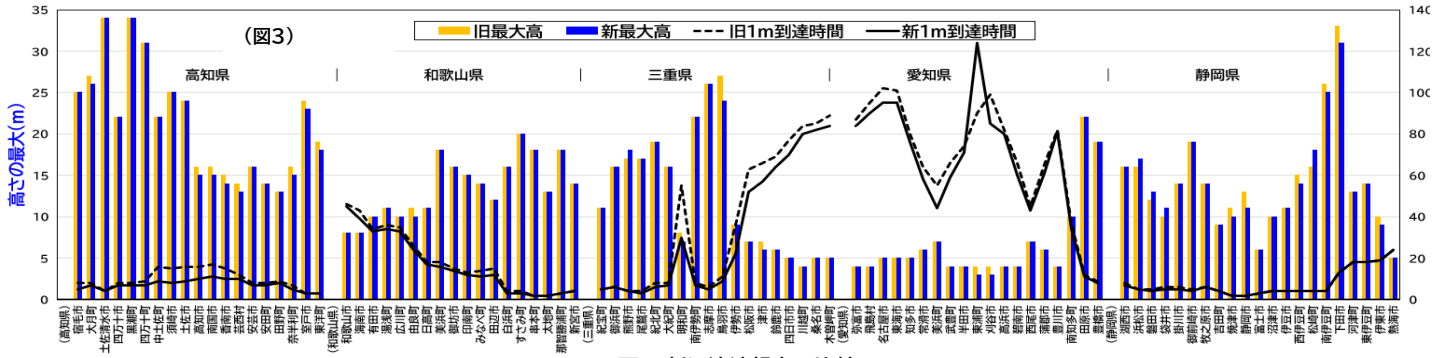


図3：新旧津波想定の比較
5県を平均すると最大の高さは新が約0.2m低く、1m到達時間は新が約2.3分早い。